



## 「海って楽しい!」子どもたちの想いが 未来の環境づくりにつながっていく

松宮 愛さん NPO法人オーシャンファミリー スタッフ

Ai Matsumiya

教育の成果はすぐに出るものではない、だからこそ大切なのは続けていくこと。  
南の島で学んだ「あわてず、あせらず、あきらめず」の協力隊スピリットは、  
海の素晴らしさを次世代に伝えていくボランティア活動に、今も活かされ続けている。

### ゴミだらけの「南の島」に衝撃 すぐに協力隊参加を決意

高校1年で自然豊かな海の魅力に触れたことをきっかけに、海での環境保護ボランティアを続けながら、大学とハワイ留学で海洋生物学を学んだ松宮さん。そんな彼女でも、はじめてマーシャル諸島を訪れたときにはイメージとのギャップに驚いたという。

「太平洋の南の島といえばハワイのようなどころなんだろうと想像していましたが、ぜんぜん違う。人が多い島にはゴミがたくさんあってショックでした。工業製品の輸入が急増したマーシャルでは、環境教育が追いついてなくて、人々はココヤシの実からジュースを飲んで殻を

ポイッと捨てていた感覚でプラスチック製品もポイ。ココナッツは土に還るけどプラスチック製品は残ってしまうことを人々が理解していなかったんです」

帰ってすぐに「マーシャル 環境教育」とインターネット検索し、ヒットした青年海外協力隊の募集にエントリー。廃棄物や自然保護に関する啓発活動を行う環境教育隊員となり、大学院を2年休学して参加した。

### 現地の文化を受け入れることで 前向きに活動が取り組めるように

マジュロ環礁にある環境保護局に配属になった当初、使命感に燃えた松宮さんと、のんびりとしか動かない周りとの間には衝突もあった。

の間には衝突もあった。

「カウンターパート（現地での活動パートナー）は小学校の校長も経験した男性で、私を『実務経験のない女の子』扱い。3ヶ月くらいは泣きながら通っていました。マーシャル語をおぼえ、日本料理を持っていき、たくさんブエブエナート（おしゃべり）して距離を縮めたんです。現地の人々の考え方と文化を理解





オーシャンファミリーのムードメーカーでもある松宮さん。パドルボードを初めて体験する人たちも満面の笑顔にしてしまう。



古民家を利用したアットホームな事務所で、海と陸をテーマにした自然体験教室の打合せ。



子どもの成長と、命を育む海の未来に思いを馳せる松宮さん。わが子と一緒にきれいな海を見るために、その魅力を発信している。

するにつれ、何が起こってもくよくよせず、前向きに活動に取り組めるようになりました」

カウンターパートは松宮さんを「My daughter (私の娘)」と呼ぶまでになり、協力して活動するように。「ゴミを捨てたら神様は悲しむよ」といったストーリーの紙芝居をつくって教会に行ったり、国中の学校を回ってワークショップや特別授業を行ったり。その活動は多岐にわたった。

なかでも印象に残っているのはサマーサイエンスキャンプだ。自身が高校時代にのめり込んだような活動を、現地の子どもたちにも経験してもらいたくて開催した。潜水用のマスクをつけるのは初めてという子どもたちに、「サンゴは岩みたいだけど、生きてるよ」と教えると、目を丸くして驚いた。海辺でいっしょに空を見上げながら、星の動き、月の満ち欠け、潮の満ち引きなどについても話した。その子どもたちから「環境問題について勉強するためにグアムの大学へ進学したい」といわれたことは、松宮さんにとって大きな励みとなっている。

「問題を少しでも解決するにはどうすればよいか。自分にできることを出しきつ

て企画し、段取りをつけて実践する、という繰り返しで、時間はかかりましたが理解してくれる現地の人も増え、自信もつきました。2年という限られた活動期間でしたが、継続して協力し合い、人を育てていくことが大切だと感じました」

**教育はすぐに結果が出ない分野だからこそ継続した活動が大切**

帰国後は大学院に復学し、途上国の環境教育と廃棄物問題をテーマにした修論を執筆。その後、企業勤務を経てJICA横浜にて海外研修員に対する研修業務を担当した。その間も、高校1年の時から縁のあるNPO法人オーシャンファミリーの海洋自然体験センターで、ボランティアとして活動を継続。子ども向けの自然体験教室では、葉山の海で、シュノーケリングや磯の生き物観察、シーカヤックなどを行いながら、海は無数の命を育てていることや海と陸のかかわりなどを体感してもらっている。

以前は、子どもたちに“体育会系の部活動”のようにマリンスポーツを教えたという松宮さん。「のんびりとしたマーシャルで2年間過ごし、忍耐力がついて

**松宮 愛さん プロフィール**

神奈川県出身。高校1年生より海のエコ環境保護ボランティア活動に従事。2007年から2009年まで、大学院を休学して青年海外協力隊に参加、マーシャル諸島に環境教育隊員として派遣。帰国後、大学院を修了し企業はじめJICA横浜にて勤務。現在は、育児に励みつつNPO法人オーシャンファミリーに所属し、ボランティアで環境教育を行っている。

『待つ』ことができるようになりました。それで分かったのは、まずは楽しんでもらうことが一番だということ。海って楽しいな、好きだな、だから仲間の安全に気をつけなくちゃ、海や砂浜をキレイにすなくちゃ。そう意識が高まっていくなかで、できることが増えていくんです」

子どもたち一人一人が成長し、人々の意識が変わり、環境が変わっていく。その成果は一朝一夕に出るものではない。それでも「あわてず、あせらず、あきらめず」の協力隊スピリットで、松宮さんは『待ち』続ける。

「最近ママになったんです。わが子と一緒にキレイな海を見たい。だから、幅広い世代に海の素晴らしさを伝えていきたいし、自分ももっと広く、深く、学び続けたいと思っています」

**松宮さんへのエール!**

NPO法人  
オーシャンファミリー代表  
海野 義明さん



**経験を次世代に伝えてほしい**

松宮さんが高校1年生の時に三宅島サマースクールに参加して以来の同志です。ここ葉山では、地元の方々を中心に様々なイベントを行っていますが松宮さんの行動力、明かさや元気、専門知識や技術そして、リーダーシップに負うところ大です。松宮さんは、ボランティア活動の第一人者です。マーシャルで学んだこと感じたことも、ぜひ次の世代に伝えてもらいたい、それを心から期待しています。